

トランペット

長男が中学校に入学して何日かが過ぎた日、「とうちゃん、ぼく吹奏楽部に入ろうかと思うんだよ。」と話しかけてきた。今まで、何の楽器も習わせていなかったのが意外に思って理由をたずねた。「6年生の時、総社市の音楽祭で鉄琴を弾かせてもらって、自分としてはうまくできたんだよ。ぼくは運動は得意ではないけれど、楽器ならみんなと同じぐらいはできると思う。それに、体験入部で先輩が吹いていたトランペットを吹いてみたいと思ったんだよ。」と言った。

吹奏楽部に入部したもののトランペットという楽器は単純なつくりをしているけれども、なかなか難しい楽器らしい。唇をブーブーおならのようにふるわせて音源を作り三つのピストンで音階を作る。「学校のトランペットで練習してるけれどぜんぜん上手にならない。とうちゃん、トランペット買ってくれん？」そんなに本気で練習してるんなら買ってやってもいいかと思い、気安く「いいよ」と答えた。カタログを見せ、「安いものから高級品まであるんだけど、このタイプがいいと思う。」どれどれとカタログをのぞき込んで思わず声がでた。18万円！。しかし、一度いいと答えている手前いやだとも言えず買うことにした。

それから毎日のように彼はペットを吹いた。土日は朝から何時間もブーブービービーとやる。何日たってもメロディーはおろか音階にならない。ご近所から苦情が出るのではないかとほらはらしたが、皆さんと耳障りで少しばかりこっけいな騒音をがまんしてくれた。半年ほどが経ち何とか音楽といえる程度になったときはほっとした。

小学校の教員でありながら、音楽はとても苦手な逃げばかりで音楽の指導はほとんどしてこなかった。だから、4月に新しい子どもたちと出会ったときには毎年ペットを吹いて聴かせているという長男の言葉は、すこしねたましく、楽器ができるっていいなあと思う。

昨日の倉敷市学校音楽祭で船穂小学校はHEIWAの鐘を歌い銀河鉄道999を演奏したけれども、皆よく練習しており、日頃の発声練習や音楽朝会の積み上げもあって、とても素晴らしいものになった。音楽祭最後に登場した玉島商業高吹奏楽部は、子どもたちも知っている演目を演奏した上、子どもたちが退場するまで演奏を続けてくれた。音楽の素晴らしさに浸ることのできた音楽祭だったと思う。

